就労男性2型糖尿病患者の食事に対する家族サポートの構造

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-11-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北川, 麻衣, KITAGAWA, Mai メールアドレス: 所属: 金沢大学, 金沢大学, 金沢大学
URL	http://hdl.handle.net/2297/00067753

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

要約

諸言：2型糖尿病患者にとって食事管理は治療の基本である。しかし、食事管理の実施に伴うライフスタイルの変化は多くの要因が関係し、特に就労2型糖尿病患者は、就労が食事管理に影響し、適切な管理が困難な状況である。ライフスタイル管理支援において、代表的なソーシャルサポートは、患者の利用できるサポート資源やニーズといった患者視点に基づくことが重要である。代表的なインフォーマルサポーターである家族のサポートを受けることにより糖尿病コントロールが改善する。家族サポートは、患者のニーズに性差があり、特に食事管理は伝統的な性役割の背景が影響するため性差を考慮する必要がある。就労糖尿病患者の約8割が男性であること、男性の食事管理行動が不良であることを踏まえると就労男性糖尿病患者に対する支援は急務である。以上より、就労男性2型糖尿病患者の食事管理を良好にするために、家族サポートを受けることは重要であるが、就労男性2型糖尿病患者を対象とし、食事管理を良好にする家族サポートを明らかにした研究はない。そのため、就労男性2型糖尿病患者の食事管理を良好にするための家族サポートの働きに着目し、患者・家族への援助方法を見出す必要があると考えた。

先行研究において、就労男性2型糖尿病患者が捉える食事に対する家族サポートの構造を明らかにし、家族サポートを測定する尺度を作成した。その結果、自宅のみならず就労中での食事管理場面に対するサポート内容で構成され、患者が捉える食

事管理場面を反映した因子構造をもつ尺度が開発された。また尺度は食事自己管理行動と関係していることが明らかとなった。

以上より、本研究の目的は就労男性2型糖尿病患者の食事管理を良好にするために有効な家族サポートの働きを明らかにするため、ソーシャルサポートモデルに基づき、構造モデルを検証することである。意義は、就労男性2型糖尿病患者及びその家族に対して、家族サポートを活用した新たな看護方法を提示する。

研究方法：質問紙を用いた横断研究を行った。研究対象者は、18–75歳の就労している男性2型糖尿病患者で、現在一人暮らしでない者とした。調査施設は、日本全国の代謝・内分泌内科の診療を行う病院及び診療所25施設であった。質問紙は、対象特性及び就労男性2型糖尿病患者の食事に対する家族サポート尺度をはじめとする、サポートに関連する5つの尺度で構成した自記式質問紙を用いた。家族サポート尺度は、下位尺度「仕事と食事の両立の困難さを理解したうえでの関わり」、「食事療法をいつも守るための導き」、「仕事中の血糖変動を最小限にするための準備」、「陰ながらの工夫をする毎日の食事」、「一緒のものを一緒に食べる食事時間」、「患者のためだけにひと手間かけた食事」で構成される全31項目の尺度である。

分析は、はじめに特性間の関係の検討を行い、その結果を踏まえて仮説モデルを作成し検証を行った。特性間の検討では、記述統計、相関分析、t検定、重回帰分析を行った。仮説モデルの検証では、記述統計、相関分析、構造方程式モデリング

(Structural Equation Modeling：SEM)を用いた。

結果：回収数123部(回収率：41.7％)、有効回答数92部(有効回答率：74.8％)であった。平均年齢は55.3±9.5歳、平均HbA1cは7.2±0.8%であった。状況の特性であるストレスと個人の特性の関係検討の結果、いくつかある個人特性のうち婚姻状況のみに有意な関連がみられた。

次に個人の特性を除いて仮説モデルの検証を行った。その結果、仮説モデルは識別されなかったため、修正指数、適合度指標を参考にモデルの修正を行った。最終的なモデルの適合度は、GFI = 0.964、AGFI = 0.916、CFI = 0.99、RMSEA = 0.042であった。

モデルは6因子で構成され、食事自己管理行動に影響を与える構造を示した。そのうち、家族サポート尺度「仕事中の血糖変動を最小限にするための準備」、「患者のためだけにひと手間かけた食事」、「仕事と食事の両立の困難さを理解したうえでの関わり」の3因子が構造モデルに投入された。

考察：本研究は就労男性2型糖尿病患者の母集団を代表した標本であり、食事管理を良好にするための家族サポートの働きをソーシャルサポートモデルに基づき、構造モデルにより明らかにした。モデルは家族からの「仕事中の血糖変動を最小限にするための準備」、「患者のためだけにひと手間かけた食事」、「仕事と食事の両立の困難さを理解したうえでの関わり」サポートを受けることが、良好なソーシャルサポートに繋がり、食事自己管理行動を良好にする方法として有効であることを示した。

結論：就労男性2型糖尿病患者及びその家族に対する食事管理

支援において、「仕事中の血糖変動を最小限にするための準備」、「患者のためだけにひと手間かけた食事」、「仕事と食事の両立の困難さを理解したうえでの関わり」の家族サポートに着目するという新たな看護方法を提示した。